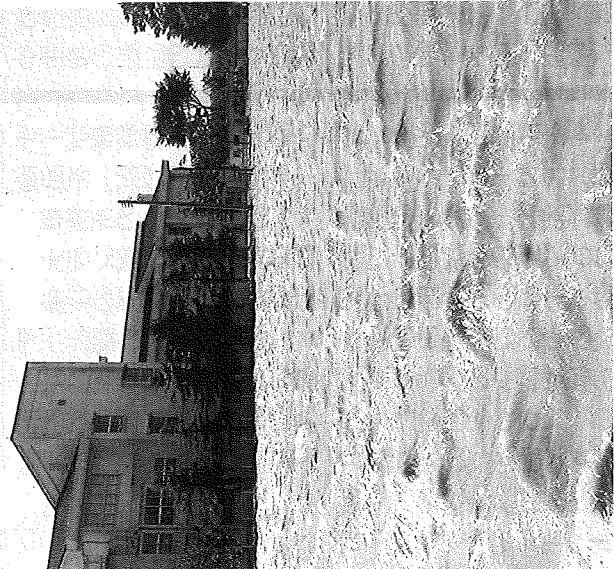


こな避難生活

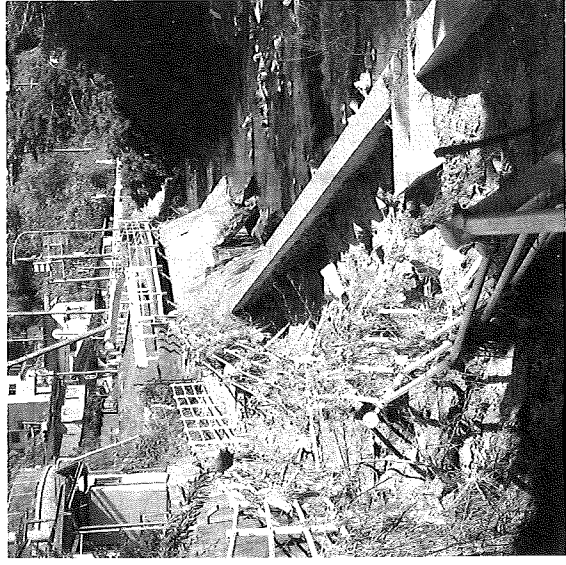


郡山市の阿武隈川近くの小学校周辺は農地が水没して湖のようになった。10月13日撮影



郡山市内の広場に積み上げられた膨大な

「福島・被災地の記録」は原則、毎月第2木曜日に掲載します。



桜川の氾濫で通行できなくなった川沿いの歩道。郡山市で、8日撮影

転勤など
も対象。
参加も可
ブながら、
とを語り
ターン促
し=写真
順で300
込み・振

イズ大会
一ナーも
・Iター
。託児室
)から郡
合わせは
へ。
3弾 17
山市開成
」中ホ一

ル。放射能について基本的なことを学
ぶ。「いまさら聞けない」シリーズの3
回目。「みんなも知ってる、原爆・原
発・五輪の80年」と題し、東京で甲状
腺検査を受けるよう呼びかけている市
民団体「放射線被ばくを学習する会」
による勉強会。世界唯一の被爆国の日
本が、なぜ原子力の平和利用を進めた
のか、原発の誘致や事故を歴史的認識
から見直し、甲状腺検査の必要性を学
ぶ。元映画監督の田島直樹さんが、福
島に五輪を迎え入れるまでの80年を振
り返り、元大学教員の温品(ぬくし
な)博一さんが、原発導入への道を切
り開いた「原子力平和利用博覧会」の
実態を語る。進行役は木村真三・独協
医科大准教授。先着100人。入場無
料。問い合わせ
は吉川一男さん
=電090(7663)1
566=へ。
※福島県産品や催し物の案内を、原
則毎月第2木曜日に掲載します。

日本橋 しま館
M I D D L E T T E
営業時間 平日・午前10時30分～午後8時
土日祝日・午前11時～午後6時
☎03-5262-1817 (休米・毎週火曜休)

日々論々

国家と芸術あるいは文化と
の関係は複雑だ。時の権力は
芸術を傘下に収め、自身への
支持を絶対化してきた。たと
えば、中世ヨーロッパにおけ
るキリスト教会は、絢爛豪華
な建築やステンドグラスなど
の装飾、数多くの宗教画と音
楽によって、大衆に神の偉大
さを理解させた。
近現代に入ってナチス・ド
イツは、芸術をプロパガンダ
に最大限活用、国民統合の道
具としたことは有名だ。一方
で同じ時代、前衛的な美術や
ジャズなどの黒人音楽は、ヒ
トラーによって厳しい弾圧を
受けた。押収された近代美術
を展示した「退(廻)陸芸術

に推進されることになる。そ
の過程で、多くの作家や編纂
者たちが命を落とした。
こうした歴史的背景にたっ
て、戦後の日本では憲法で保
障された表現の自由は、検閲
を禁止するなど国家が直接、
表現内容に立ち入ることを厳
しく戒めてきた。いわゆる

の関係性が表面化し、政府が
君が代を国歌として教育現場
で強制することや、教科書の
中身を厳しくチェックする検
定制度が、問題視されてきた
経緯がある。
また、パブリックな場(公
共空間)での表現行為をどこ
まで認めるかも、戦後一貫し

政府助成

展」はその象徴でもある。同
じことは日本でも行われ、時
局にまわれないなどの理由
で、文学・絵画等は検閲の対
象となり、一方で戦争礼賛の
芸術が「報国会」などを中心

「国家からの自由」の実現で
ある。そこはいつでも時にそ

カネは出すがクチは出さず

て争われてきた領域だ。公道
や公園におけるゴミや集会が
これにあたる。最近では、公
共施設の貸し出しを特定の者
に禁止できるか議論されてい
る。イベント立ちをきる可
能性がある団体・個人に対す
る禁止や、施設や来館者の安
全管理を理由とした論争の渦
中にあるような催しの制限
だ。

日本の場合、街の図書館・
集会所の代名詞である公共図
書館や公民館は、すべて
「官」の管理下にある。博物
館(美術館や水族館なども含
む)の多くもやはり「官」の
持ち物である。話題になった
あいちトリエンナーレほか、
大掛かりな美術展や映画祭も
その責任者や共催者に自治体
がかかわることが少なくな

い。さらにいえば、文化・芸
術・研究の幅広い分野におい
て、公的な補助が実施されて
いる。いわゆる国家助成で、
多くの国で一般的に行われて
いる文化政策の一つだ。これ
はいわば「国家による自由」
の保障という側面を有し、市
民にスペース=空間、チャン
ス=機会、ファイナンス=資
金といった「場」を提供する
ことで、社会全体の表現の自
由を保障するという役割を担
っている。

ここでは、①場を提供する

かどつかは政策であつて、こ
の是非は選挙を通じて有権者
である市民が判断をし、②い
ったん場を提供することを決
めた公的機関は、それを維持
する義務が生じ、③その内容
については専門職の判断に委
ね口出しをしないことが求
められている。その専門職の
代表格が、博物館の学芸員で
あり図書館の司書だ。こうし
た、表現の自由ルールが忘れ
られている事件が、あまりに
多すぎる。

(毎月第2木曜日に掲載)

公的助成を巡る 最近のトピック

- 2019.7 出演者の有罪判決を受
け、映画「宮本から君へ」の文化
芸術振興費補助金内定(3月)を
取り消し
- 8.1 和田政宗参議院議員が「あ
いちトリエンナーレ」について
「しっかりと情報確認を行い、適
切な対応」とツイート
- 同日 小坪しんやが行橋市議会議員
が自身のウェブページで「電凸」
をあげるコメントを繰り返し掲載
をめぐり、河村たかし名古屋市長が、
トリエンナーレの「表現の不自
由」中止を求め、以後、松井一
郎大阪市長、吉村洋文大阪府知
事、黒岩祐治神奈川県知事も同様
の発言
- 同日 菅義偉官房長官、柴山昌彦
文部科学相が見えで、補助金交付
決定に関し「事実関係を確認した
上で適切に対応」と発言
- 8.3 あいちトリエンナーレ実行委員会長の不自
由の展示中止発表
- 9.26 文化庁が、補助金適正化法
第6条等に基づき、あいちトリ
エンナーレの全額不交付を決定
- 9.27 日本芸術文化振興会が、交
付要綱8条を変更し「その他公益
性の観点から助成金の交付(内
定)が不適当と認められる場合」
を取り消し条件に追加
- 10.27 川崎市で開催の「KAW
ASAKIしんゆり映画祭」で、
市からの「懸念」伝達をきっかけ
に映画「主戦場」の上映取り下
げ。会期の最終日に無料上映
10.29 三重県伊勢市・市美術展
覧会で、市の意向で「安全な運営
のため」作品の展示が不許可に
10.30 ウィリアムの国交樹立150年
を記念する芸術展の公認を、事業
要件を満たしていないとして外務
省が取り消し

視点

見張り塔から メディアの今



専修大教授・山田健太さん